

利尻島における鳥類の新分布の記録 (2017-2018 年)

田牧和広

〒 097-0211 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字沼浦

Newly Recorded Birds from Rishiri Island, Northern Hokkaido in 2017 and 2018

Kazuhiro TAMAKI

Numaura, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan

Abstract. Four bird species, *Platalea leucorodia*, *Phoenicurus ochruros*, *Monticola gularis* and *Emberiza pallasi*, are newly recorded from Rishiri Island, northern Hokkaido in 2017 and 2018.

利尻島の鳥類相は、小杉 (2000) によると 255 種が記録され、その後も様々な報告が追加され (田牧, 2001; 田牧ほか, 2003; 大野・小杉, 2007; 佐藤ほか, 2007; 黒川・小杉, 2010; 風間ほか, 2013; 田牧, 2016, 2017; 佐藤・山谷, 2017, など), 2017 年 3 月までに 321 種が記録されている。筆者は 2017 年 4 月と 2018 年 4 月から 5 月にかけて、同島においてこれまで観察記録がなかったヘラサギ、クロジョウビタキ、ヒメイソヒヨ、シベリアジュリンの 4 種を確認したので、ここにその詳細を写真とともに報告する。

観察記録は、観察場所、観察年月日、個体数の順に記し、種の配列、和名及び学名については日本鳥学会 (2012) に従った。なお、小杉和樹氏 (日本

野鳥の会道北支部) には同定の確認のほか、本原稿の校閲をいただいた。さらに本稿取りまとめの際、佐藤雅彦氏 (利尻町立博物館) には大変お世話になった。これらの方々に心より感謝申し上げる。

01. ヘラサギ (Fig. 1)

Platalea leucorodia Linnaeus, 1758

利尻富士町鬼脇字沼浦, 2018.v.12, 1

筆者が本種を観察したのは、利尻島南東部の沼浦地区にあるオタトマリ沼の湿地である。2018 年 5 月 12 日午前 6 時頃、沼の手前側の湿地にいた 2 羽のアオサギが、筆者に気づいて飛び立った時に、不明なサギ類 1 羽も一緒に飛び立った。その大きさ



Figure 1, *Platalea leucorodia*. Numaura, Rishiri Island. May 12, 2018.



Figure 2. *Phoenicurus ochruros*, Minamihama, Rishiri Island. a-b: April 16, 2017, c: April 17, 2017.

はアオサギほどで、体全体が白く、嘴は尖らず平らであった (Fig. 1a)。一度上空を旋回したが、南の方向に飛び去り見失った。15分ほど沼を周遊していると、先ほどの不明サギが飛来し、発見場所の湿地に再び降りたため、30mほどの距離を置いて観察した (Fig. 1b)。その不明サギはアオサギ1羽とダイサギ1羽と一緒に居り、嘴を背中に載せ休んでいた。時折何度か頭を持ち上げ、周囲を見回していたが、採取行動などは見られなかった。

観察された不明サギは、長く平たい嘴を持ち、首も足も長く、眼先は青白色の細い裸出部があり、眼と嘴が離れて見えた。似ているクロツラヘラサギは、顔の黒い皮膚が裸出し嘴から額・眼までが様に黒く見えることからヘラサギと判断した (桐原ほか, 2000; 高野, 2015)。また、飛翔中の観察個体の翼先端が黒く見えたほか、その嘴は黄色というよりわずかにピンク色を呈していたため、ヘラサギの若鳥と考えられた (高野, 2015)。

ヘラサギは、ユーラシア大陸中部・インド・アフリカ北部に分布、日本では数少ない冬鳥として飛来する (桐原ほか, 2000)。九州では毎年記録されるが、それ以外では稀に記録される (桐原ほか, 2000)。道内では函館、伊達長流川河口、苫小牧、鶴川河口、千歳市長都沼、羽幌天売島等で記録がある (藤巻, 2012)。

02. クロジョウビタキ (Fig. 2)

Phoenicurus ochruros (Vieillot, 1818)

利尻富士町鬼脇字南浜, 2017.iv.16-17, 1

筆者が本種を観察した場所は、利尻島南部の南浜地区である。2017年4月16日午後2時頃、民家のそばの草地や昆布の干場の砂利地で、オス2羽メス2羽のジョウビタキの群れの中に不明種1羽 (Fig. 2a-b) を見つけた。翌17日午前8時頃にも同じ場所でこの不明種を観察することができた (Fig. 2c)。車中より10~50mほどの距離を置き観察撮影を行った。草藪の中を出たり入ったり、立木や板囲いの上に止まって尾羽を振るわせたり、ジョウビタキと同様の行動が見られた。筆者の10mほどそばまで来ることがあり、人を恐れる感じはなかった。観察された個体の体上面は灰色かかった黒褐色で、翼は無斑、胸は腹との色が異なり、下尾筒は淡い橙色、腰と上尾筒は橙褐色、嘴と足は黒褐色であった。似ているジョウビタキのメスの体は灰褐色で翼に白斑があり、上下尾筒とも橙色であり、また腿以下の下面は淡褐色で脇は灰色みが強い (高野ほか, 2015; 真木ほか, 2015)。シロビタイジョウビタキのメスは、クロジョウビタキより全体に褐色味が淡く、淡褐色のアイリングが目立ち、胸と腹とほとんど同色である (五百沢ほか, 2014)。これらのことから、観察した個体はクロジョウビタキのメスと判断した (永井, 2014; 五百沢ほか, 2014)。

クロジョウビタキは、ヨーロッパ中部および南部・黒海東海岸・ロシア中南部・モンゴル・チベット・中国中西部で繁殖し、アフリカ北部・ヨーロッパ南部・西南アジア・インド・インドシナで越冬する (五百沢ほか, 2014)。日本では迷鳥として北海道・埼玉・舭倉島・見島・西表島などで記録がある

(五百沢ほか, 2014). 道内では積丹来岸, 余市, 知床岬などの記録がある (藤巻, 2012).

03. ヒメイソヒヨ (Fig. 3)

Monticola gularis (Swinhoe, 1863)

利尻富士町鬼脇字沼浦, 2018.v.12, 1

筆者が本種を観察したのは利尻島南部の沼浦地区である。2018年5月12日午前7時半頃, この地区にあるオタトマリ沼の近くにある民家の林中で, ツグミより小さく, おおよそシメほどの大きさの鳥が立木の横枝に留まっていた。20~30mほど離れて観察したところ, 時折飛び立ち, 4~5m離れた立木に再び留まる行動を2度ほど繰り返したが, 遠くに逃げる事はなかった。ヒタキ類のように人を恐れる感じは見られず, また鳴く事もなかった。観察個体 (Fig. 3) は, 額から後頸, 背以下の体上面はオリーブ褐色で, 黒褐色の縦斑がみられた。下面は, 黒褐色で鱗状斑が目立つ。腮から喉中央は白色の縦筋斑がある。類似種との区別としては, 大きさはシメほどだったのでトラツグミでもない。マミジロのメスの上面はオリーブ褐色で, 白い眉斑がある (五百沢ほか, 2014)。コシジロイソヒヨドリメスの喉には白斑はなく, 外側尾羽は赤褐色である (五百沢ほか, 2014)。本個体は, これら類似種が持つ特徴とは合致しなかった。これらの特徴から, 観察した個体はヒメイソヒヨのメスと判断した (五百沢ほか, 2014; 真木ほか, 2015)。

ヒメイソヒヨは, トランスバイカリア南東部から

ウスリー・中国北東部・朝鮮半島北部で繁殖, 冬季には中国南部・タイ・マレー半島に渡る (五百沢ほか, 2014)。日本には迷鳥として渡来し, 北海道・秋田・舳倉島他で記録がある (五百沢ほか, 2014)。道内では, 羽幌天売島, 浜頓別, 礼文島等で記録がある (藤巻, 2012)。なお, 道内のこれまでの記録はすべてオスの観察であり, 本記録は道内における初めてのメスの記録となった。

04. シベリアジュリン (Fig. 4)

Emberiza pallasi (Cabanis, 1851)

利尻富士町鬼脇字沼浦, 2018.iv.4, iv.9, 1

筆者が本種を観察した場所は, 利尻島南東部の沼浦地区である。2018年4月4日午後2時頃, 民家のまだ植え付けなどがされていない畑にて, ミヤマホオジロ2羽, シラガホオジロのオス2羽とメス1羽と共に, 地面に嘴を差し込み餌をついばんでいた不明種1羽を見つけた。この不明種は, 同じ場所で4月9日にも再び観察することができ, 観察は20mほど離れた車中から行なった。

観察されたこの不明種は, 嘴峰がまっすぐであり, シラガホオジロと比較すると体の大きさが一回り小さかった (Fig. 4b)。本個体がオオジュリンであれば, シラガホオジロとほぼ同じ大きさであり, 嘴峰は丸みを帯びているはずであるが, その特徴に合致しなかった (真木ほか, 2015; 高野, 2015)。シベリアジュリンのメスの頭と頬は褐色で, 眉斑はバフ白色, 下面はバフ白色で黒の顎線が

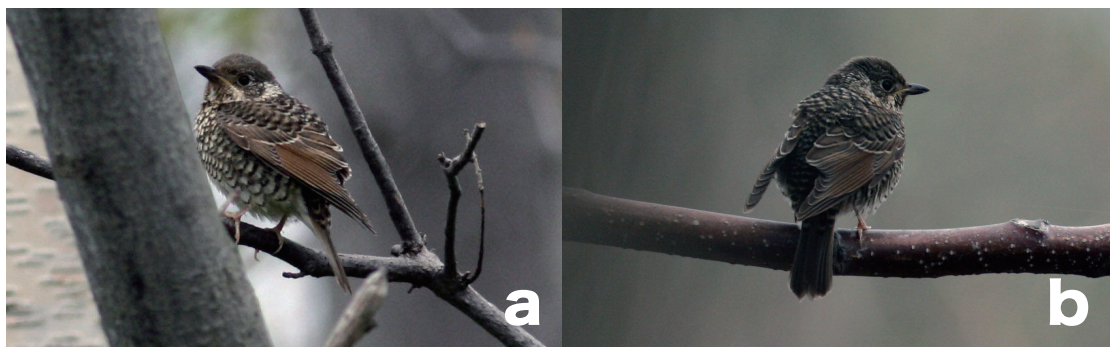


Figure 3. *Monticola gularis*. Numaura, Rishiri Island. May 12, 2018.



Figure 4. *Emberiza pallasi* (a-c) and *E. leucocephalos* (b), Numaura, Rishiri Island. a-b: April 4, 2018, c: April 9, 2018.

あるため、観察した個体はシベリアジュリンのメスと判断した（五百沢ほか，2014；高野，2015）。

シベリアジュリンは、ウラル山脈から東はチュコト半島までのシベリア・モンゴル中国北東部で繁殖し、モンゴル・朝鮮半島・中国で越冬する（五百沢ほか，2014）。日本では少ない冬鳥として九州以北に渡来する（五百沢ほか，2014）。道内では、七飯、石狩生振、根室、礼文島などで記録がある（藤巻，2012）。

参考文献

- 藤巻裕蔵，2012. 北海道鳥類目録改訂4版. 補遺. 極東鳥類研究会. 美唄. 78pp.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸，2014. 新訂日本の鳥 550. 山野の鳥. 文一総合出版. 東京. 415pp.
- 風間健太郎・宮本誠一郎・佐藤雅彦，2013. 利尻島におけるチュウヒの観察記録. 利尻研究, (32): 51-52.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸，2000. 日本の鳥 550. 水辺の鳥. 文一総合出版. 東京. 351pp.
- 小杉和樹，2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅（編），北海道島の野鳥：150-155. 北海道新聞社. 札幌.
- 黒川健一・小杉和樹，2010. 利尻島におけるジュウイチ *Cuculus fugax* の初記録. 利尻研究, (29):

57-58.

- 真木広造・大西敏一・五百沢日丸，2015. 日本の野鳥 650. 平凡社. 788pp.
- 永井真人，2014. ♪鳥くんの比べて識別!野鳥図鑑 670. 文一総合出版. 東京. 399p
- 日本鳥学会，2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. 三田. 438pp.
- 大野陽子・小杉和樹，2007. 利尻島において観察されたシベリアムクドリ. 利尻研究, (26): 29-30.
- 佐藤雅彦・山谷文人，2017. 利尻小学校に保管されていたアカショウビン標本. 利尻研究, (36): 21-23.
- 佐藤里恵・小杉和樹・川崎康弘，2007. 利尻島におけるイナバヒタキ *Oenanthe isabellina* の初記録. 利尻研究, (26): 51-52.
- 高野伸二，2015. フィールドガイド日本の野鳥. 増補改訂新版. 日本野鳥の会. 392pp.
- 田牧和広，2001. 利尻島における鳥類の新分布の記録. 利尻研究, (20): 29-34.
- 田牧和広，2016. 利尻島におけるヨーロッパビンズイとコウライウグイスの観察記録. 利尻研究, (35): 01-03.
- 田牧和広，2017. 利尻島における鳥類の新分布の記録 (2016年). 利尻研究, (36): 13-15.
- 田牧和広・杉浦直樹・小杉和樹・佐藤雅彦，2003. 利尻島における鳥類の新分布および希少種の記録 (2). 利尻研究, (22): 23-25.